

鷺田清一と ともに考える

③ 纏い、待つ
みなれたものをはじめてみるかのように

2014年12月23日(火・祝) 14:00—16:00

せんだいメディアテーク 1階オープンスクエア

参加無料・申込不要・先着160席

主催：せんだいメディアテーク(公益財団法人仙台市市民文化事業団)

堀畑裕之
(matohu)
関口真希子
(matohu)
鷺田清一
(せんだいメディアテーク館長／哲学者)

他人と少し違うことの新鮮さではなく、アヴァンギャルドの新鮮さでもない、変わらないポエジーをふくんだ新鮮な服は可能だろうか。それが私たちのほんとうに憧れる新鮮さだ。

堀畑裕之 関口真希子「言葉の服—歴史—」より

せんだいメディアテーク館長の鷺田清一が、各分野のプロフェッショナルからお話をうかがいながら、いま、メディアテークを通してみえる社会の課題について、みなさんと共有し、考えを深めていく対話の時間。現在、メディアテークが取り組む事業テーマ「対話の可能性」では、人や土地、歴史など、さまざまに対話の相手を求め、それらといかに関係を結び、向きあえるか、その可能性を探っています。

今回は、服を身に「纏う」と、成熟するのを「待つ」というふたつの意味が込められたブランド「matohu」を立ち上げ、独自のスタイルを提示してこられた堀畑裕之さんと関口真希子さんをお招きします。お二人にとっての「新しさ」についてお話をうかがいながら、社会、そして、わたし自身との対話を媒介するメディアとしての服／ファッションについて考えていきます。

鷺田清一(わしだ きよかず)：哲学者、大谷大学文学部教授。1949年生まれ。京都大学文学部卒業、同大学院修了。大阪大学総長を経て、現職。これまで哲学の視点から、身体、他者、言葉、教育、アート、ケアなどを論じるとともに、さまざまな社会・文化批評をおこなってきた。主な著書に、『モードの迷宮』(ちくま学芸文庫、サントリー学芸賞)、『「聴く」ことのか—臨床哲学試論』(阪急コミュニケーションズ、桑原武夫学芸賞)、『「くずくず」の理由』(角川選書、読売文学賞)など多数。

matohu(まとう)：堀畑裕之(ほりはた ひろゆき)と関口真希子(せきぐち まきこ)がデザインするブランド。「日本の美意識が通底する新しい服の創造」をコンセプトに2005年より活動開始。5年間10シーズンにわたり「慶長の美」をテーマに、慶長年間の精神を服の造形に活かしたコレクションを発表。現在は「日本の眼」をテーマに、さらに先鋭的な服づくりを展開している。2009年毎日ファッション大賞新人賞・資生堂奨励賞を受賞、2011年「matohu 慶長の美」展(スパイラルガーデン、熊本市現代美術館)、2012年「matohu 日本の眼—日常にひそむ美をみつかる」展(金沢21世紀美術館)を開催。